

社会課題

戦争システムから平和システムへ

ーキリスト教平和学／パレスチナ紛争・北アイルランド紛争の事例から考えるー

今日世界が直面している一番大きな危機は気候変動でしょう。それにもかかわらず各国の軍事費は増大し、軍需産業は潤っています。気候変動を引き起こしている産業開発のスタイルは「戦争システム」を支えてきた体制と表裏一体です。軍縮、環境保全、飢餓解消、人権擁護などの要求は、別々の運動ではなく、「戦争システム」に取って代わるべき「平和システム」を構築するキャンペーンのさまざまな位相です。上智大学の教育のルーツは、聖イグナチオの『靈操』の「原理と基礎」の「人間が造られたのは、わたしたちの主である神を賛美し、敬い、仕えるためであり、それによって自らの魂を救うためである」にあります。わたしたちに求められるのは、「わたしの魂よ、主をたたえよ」を貫き、質素に生き、寛大に分かち合うことです。平和学の最も簡潔な定義は「戦争の諸原因と平和の諸条件に関する研究と教育」であり、聖書の平和(シャローム)は、単に争いが存在しないだけではなく、無欠を意味する語に由来し、何も必要としない命の充実です。「戦争システム」から「平和システム」への転換をパレスチナ紛争と北アイルランド紛争の事例から考えます。

春学期開講日程 第1回 5/15(木) 18:30～20:00 第2回 5/29(木) 18:30～20:00 第3回 6/12(木) 18:30～20:00 第4回 6/26(木) 18:30～20:00

時事トピックから現代社会を読み解くーお祭りと聖地巡礼(観光)をめぐる諸問題ー

本講座では、時事問題を取り上げて、その背景にあるわれわれの社会の現状と将来について考えていきます。具体的には、2025年度春学期は、コロナ禍以降、全国のお祭りに生じている問題と、渋谷のハロウィーン事件など、聖地巡礼をはじめとする観光の過熱が引き起こしている問題を取り上げます。お祭りも聖地巡礼(観光)もそれなりに熱心な人々は存在しますが、過熱すると多くの人々から迷惑な存在だと忌避される傾向があります。本講座では、こうした事件の概観とその発生・持続に深くかかわる社会的背景について社会学の立場から解説いたします。そのうえで、これからどうしたら良いのか、その望ましい将来像についてご一緒に考えていきたいと思います。ここで取り上げる2つのテーマは、容易に理解し合えない他者と、どのようにこの社会の中で生きていけば良いのか、という課題を私たちに突きつけるものです。グローバル化が急速に進み、多様性(ダイバーシティ)が声高に叫ばれる日本社会の中で、異質で、それゆえ簡単に認めがたい他者とどのように付き合うべきであるのか、少し立ち止まって考えてみたいと思います。

春学期開講日程 第1回 5/10(土)10:00～11:30 第2回 5/24(土)10:00～11:30 第3回 6/7(土)10:00～11:30 第4回 6/21(土)10:00～11:30

入門・ラテンアメリカの経済と社会ー貧困・格差問題を通じて考える世の中の仕組みー

皆さんはラテンアメリカ(中南米)と聞いて、どのようなことを思い浮かべるでしょうか。文字通り「地球の裏側」ですし、日本では報道されることもあまり多くない、「遠くて遠い」世界です。しかし、ちょっと覗いてみるだけでも、ラテンアメリカには、自然、歴史、文化等々、大きな「豊かさ」が息づいているのを見ることがができます。今、「豊かさ」とカギ括弧つきで表現しましたが、ラテンアメリカは同時に「貧困・格差」の問題が古くから深刻な地域としても知られています。この講座では、ラテンアメリカの経済と社会について、その「豊かさ」を垣間見ていただくとともに、日本も含む全世界で大きな問題になりつつあるとされる「貧困や格差」について、その何が問題なのかを、この地域の歴史と現在を素材に考えてみたいと思います。講座は、講師が一方向的に知識を「教える」のではなく、参考図書に目を通してきていただいた上で、可能な限りインタラクティブ(講師と受講される皆さんの間だけでなく、受講される皆さん相互間でも)な形で進めていければと思っています。

春学期開講日程 第1回 5/15(木) 18:30～20:00 第2回 5/29(木) 18:30～20:00 第3回 6/12(木) 18:30～20:00 第4回 6/26(木) 18:30～20:00

ブラジルから見た世界ー存在感が増すグローバル・サウスを考えるー

今世界では様々な対立が起こっています。そんな中で注目を集めているのがグローバル・サウス。ブラジルはグローバル・サウスを代表する国の一つです。昨年はG20首脳会議の議長国として、「飢餓と貧困に対するグローバル・アライアンス」の立ち上げに大きく貢献しました。2025年後半はBRICS首脳会議とCOP30(気候変動に関する国連枠組条約)の議長国として、さらに存在感を示すことになるでしょう。日本との関係でいえば、同じく2025年は国交が始まってから130年を迎えます。地理的には遠いですが、100年以上前のブラジルへの移民に始まる「人と人との関係」が両国には存在します。豊かな資源に恵まれたブラジルは、日本の将来を考える上で重要な国です。この講座では、ブラジル外交の「今」を取り上げます。世界の中でブラジルはどんな立ち位置にあるのか。ブラジルというグローバル・サウスの声に耳を傾け、そこから日本の針路について考える機会になればと考えています。

春学期開講日程 第1回 5/17(土) 14:15～15:45 第2回 5/31(土) 14:15～15:45 第3回 6/14(土) 14:15～15:45 第4回 6/28(土) 14:15～15:45

アメリカと世界、そして日本

国内の激しい分断の中、トランプ第二次政権が始まったアメリカ。これからのアメリカ、世界、そして日本の今後を本講座では展望します。覇権国・アメリカはどこに行くのか。ロシア・中国の対立はどうなるのか。日本への影響はどうなるか。そして国際秩序はどう変容するのか。この激動の時代の私たちの針路を受講者の皆さんと検討します。具体的には、講座時点で最も重要な話題を取り上げて論じながら、激変する国際関係の変化を読み解き、今後の私たちの針路を考えていきます。最新のお話をこれまでの政治の文脈でとらえ直す形ですが、復習的に振り返る部分はありますが、過去の講座とは大筋では重複しない形ですので継続受講も歓迎いたしますし、新規受講者にも分かりやすくお話をいたします。

春学期開講日程 第1回 4/19(土)14:30-16:00 第2回 5/17(土)14:30-16:00 第3回 6/21(土)14:30-16:00 第4回 7/19(土)14:30-16:00

ローカルとグローバルからみる文化遺産ー上智大学で学ぶ世界遺産アンコールー

現代社会における文化遺産は、単に保護するだけではなく、その文化資源としての活用に期待がかかっています。上智大学が長年取り組んできたカンボジアのアンコール遺跡における調査・研究および普及教育活動を振り返りながら、現代社会における文化遺産保護の仕組みと国際協力、そして活用への理解を深めると同時に(グローバルな視座)、地域社会の人々の日常や信仰実践から文化遺産のありかたを問い直します(ローカルな視座)。

春学期開講日程 第1回 5/24(土) 12:30～14:00 第2回 5/24(土) 14:15～15:45 第3回 6/7(土) 12:30～14:00 第4回 6/7(土) 14:15～15:45

分断の時代の和平調停と平和構築ーガザ、ウクライナ戦争、南スーダン、アフガニスタンー

担当教員は、20年以上、紛争下の和平調停や、紛争後の平和構築について調査・研究・実務に関わってきました。「平和構築～アフガンと東ティモールの現場から」(岩波新書 2009年)、「内戦と和平～現代戦争をどう終わらせるか」(中公新書、2020年)、「ウクライナ戦争をどう終わらせるか～和平調停の限界と可能性」(岩波新書、2023年)などの自著を使いつつ、現代における戦争を終結させるための交渉(和平調停)と、その後、持続的な平和の構築(平和構築)の方策を模索します。具体的には、ガザ紛争、ウクライナ戦争、南スーダンの内戦、アフガニスタンの内戦と人道危機について、これまでの研究と実務(国連アフガン支援ミッション政務官、国連日本政府代表部公使参事官)等の経験も踏まえ、経験を共有しつつ、参加者の人たちと議論します。同時に、日本の世界における役割についても考えたいと思います。

春学期開講日程 第1回 5/16(金)20:00～21:30 第2回 5/30(金)20:00～21:30 第3回 6/13(金)20:00～21:30 第4回 6/27(金)20:00～21:30

社会課題

戦争システムから平和システムへ

ーキリスト教平和学／パレスチナ紛争・北アイルランド紛争の事例から考えるー

今日世界が直面している一番大きな危機は気候変動でしょう。それにもかかわらず各国の軍事費は増大し、軍需産業は潤っています。気候変動を引き起こしている産業開発のスタイルは「戦争システム」を支えてきた体制と表裏一体です。軍縮、環境保全、飢餓解消、人権擁護などの要求は、別々の運動ではなく、「戦争システム」に取って代わるべき「平和システム」を構築するキャンペーンのさまざまな位相です。上智大学の教育のルーツは、聖イグナチオの『靈操』の「原理と基礎」の「人間が造られたのは、わたしたちの主である神を賛美し、敬い、仕えるためであり、それによって自らの魂を救うためである」にあります。わたしたちに求められるのは、「わたしの魂よ、主をたたえよ」を貫き、質素に生き、寛大に分かち合うことです。平和学の最も簡潔な定義は「戦争の諸原因と平和の諸条件に関する研究と教育」であり、聖書の平和(シャローム)は、単に争いが存在しないだけではなく、無欠を意味する語に由来し、何も必要としない命の充実です。「戦争システム」から「平和システム」への転換をパレスチナ紛争と北アイルランド紛争の事例から考えます。

春学期開講日程 第1回 5/15(木) 18:30～20:00 第2回 5/29(木) 18:30～20:00 第3回 6/12(木) 18:30～20:00 第4回 6/26(木) 18:30～20:00

時事トピックから現代社会を読み解くーお祭りと聖地巡礼(観光)をめぐる諸問題ー

本講座では、時事問題を取り上げて、その背景にあるわれわれの社会の現状と将来について考えていきます。具体的には、2025年度春学期は、コロナ禍以降、全国のお祭りに生じている問題と、渋谷のハロウィーン事件など、聖地巡礼をはじめとする観光の過熱が引き起こしている問題を取り上げます。お祭りも聖地巡礼(観光)もそれなりに熱心な人々は存在しますが、過熱すると多くの人々から迷惑な存在だと忌避される傾向があります。本講座では、こうした事件の概観とその発生・持続に深くかかわる社会的背景について社会学の立場から解説いたします。そのうえで、これからどうしたら良いのか、その望ましい将来像についてご一緒に考えていきたいと思います。ここで取り上げる2つのテーマは、容易に理解し合えない他者と、どのようにこの社会の中で生きていけば良いのか、という課題を私たちに突きつけるものです。グローバル化が急速に進み、多様性(ダイバーシティ)が声高に叫ばれる日本社会の中で、異質で、それゆえ簡単に認めがたい他者とどのように付き合うべきであるのか、少し立ち止まって考えてみたいと思います。

春学期開講日程 第1回 5/10(土)10:00～11:30 第2回 5/24(土)10:00～11:30 第3回 6/7(土)10:00～11:30 第4回 6/21(土)10:00～11:30

入門・ラテンアメリカの経済と社会ー貧困・格差問題を通じて考える世の中の仕組みー

皆さんはラテンアメリカ(中南米)と聞いて、どのようなことを思い浮かべるでしょうか。文字通り「地球の裏側」ですし、日本では報道されることもあまり多くない、「遠くて遠い」世界です。しかし、ちょっと覗いてみるだけでも、ラテンアメリカには、自然、歴史、文化等々、大きな「豊かさ」が息づいているのを見ることがができます。今、「豊かさ」とカギ括弧つきで表現しましたが、ラテンアメリカは同時に「貧困・格差」の問題が古くから深刻な地域としても知られています。この講座では、ラテンアメリカの経済と社会について、その「豊かさ」を垣間見ていただくとともに、日本も含む全世界で大きな問題になりつつあるとされる「貧困や格差」について、その何が問題なのかを、この地域の歴史と現在を素材に考えてみたいと思います。講座は、講師が一方向的に知識を「教える」のではなく、参考図書に目を通してきていただいた上で、可能な限りインタラクティブ(講師と受講される皆さんの間だけでなく、受講される皆さん相互間でも)な形で進めていければと思っています。

春学期開講日程 第1回 5/15(木) 18:30～20:00 第2回 5/29(木) 18:30～20:00 第3回 6/12(木) 18:30～20:00 第4回 6/26(木) 18:30～20:00

ブラジルから見た世界ー存在感が増すグローバル・サウスを考えるー

今世界では様々な対立が起こっています。そんな中で注目を集めているのがグローバル・サウス。ブラジルはグローバル・サウスを代表する国の一つです。昨年はG20首脳会議の議長国として、「飢餓と貧困に対するグローバル・アライアンス」の立ち上げに大きく貢献しました。2025年後半はBRICS首脳会議とCOP30(気候変動に関する国連枠組条約)の議長国として、さらに存在感を示すことになるでしょう。日本との関係でいえば、同じく2025年は国交が始まってから130年を迎えます。地理的には遠いですが、100年以上前のブラジルへの移民に始まる「人と人との関係」が両国には存在します。豊かな資源に恵まれたブラジルは、日本の将来を考える上で重要な国です。この講座では、ブラジル外交の「今」を取り上げます。世界の中でブラジルはどんな立ち位置にあるのか。ブラジルというグローバル・サウスの声に耳を傾け、そこから日本の針路について考える機会になればと考えています。

春学期開講日程 第1回 5/17(土) 14:15～15:45 第2回 5/31(土) 14:15～15:45 第3回 6/14(土) 14:15～15:45 第4回 6/28(土) 14:15～15:45

アメリカと世界、そして日本

国内の激しい分断の中、トランプ第二次政権が始まったアメリカ。これからのアメリカ、世界、そして日本の今後を本講座では展望します。覇権国・アメリカはどこに行くのか。ロシア・中国の対立はどうなるのか。日本への影響はどうなるか。そして国際秩序はどう変容するのか。この激動の時代の私たちの針路を受講者の皆さんと検討します。具体的には、講座時点で最も重要な話題を取り上げて論じながら、激変する国際関係の変化を読み解き、今後の私たちの針路を考えていきます。最新のお話をこれまでの政治の文脈でとらえ直す形ですが、復習的に振り返る部分はありますが、過去の講座とは大筋では重複しない形ですので継続受講も歓迎いたしますし、新規受講者にも分かりやすくお話をいたします。

春学期開講日程 第1回 4/19(土)14:30-16:00 第2回 5/17(土)14:30-16:00 第3回 6/21(土)14:30-16:00 第4回 7/19(土)14:30-16:00

ローカルとグローバルからみる文化遺産ー上智大学で学ぶ世界遺産アンコールー

現代社会における文化遺産は、単に保護するだけではなく、その文化資源としての活用に期待がかかっています。上智大学が長年取り組んできたカンボジアのアンコール遺跡における調査・研究および普及教育活動を振り返りながら、現代社会における文化遺産保護の仕組みと国際協力、そして活用への理解を深めると同時に(グローバルな視座)、地域社会の人々の日常や信仰実践から文化遺産のありかたを問い直します(ローカルな視座)。

春学期開講日程 第1回 5/24(土) 12:30～14:00 第2回 5/24(土) 14:15～15:45 第3回 6/7(土) 12:30～14:00 第4回 6/7(土) 14:15～15:45

分断の時代の和平調停と平和構築ーガザ、ウクライナ戦争、南スーダン、アフガニスタンー

担当教員は、20年以上、紛争下の和平調停や、紛争後の平和構築について調査・研究・実務に関わってきました。「平和構築～アフガンと東ティモールの現場から」(岩波新書 2009年)、「内戦と和平～現代戦争をどう終わらせるか」(中公新書、2020年)、「ウクライナ戦争をどう終わらせるか～和平調停の限界と可能性」(岩波新書、2023年)などの自著を使いつつ、現代における戦争を終結させるための交渉(和平調停)と、その後、持続的な平和の構築(平和構築)の方策を模索します。具体的には、ガザ紛争、ウクライナ戦争、南スーダンの内戦、アフガニスタンの内戦と人道危機について、これまでの研究と実務(国連アフガン支援ミッション政務官、国連日本政府代表部公使参事官)等の経験も踏まえ、経験を共有しつつ、参加者の人たちと議論します。同時に、日本の世界における役割についても考えたいと思います。

春学期開講日程 第1回 5/16(金)20:00～21:30 第2回 5/30(金)20:00～21:30 第3回 6/13(金)20:00～21:30 第4回 6/27(金)20:00～21:30

異常気象も見据えた防災のあり方ー地域コミュニティ編ー

本講座は、防災の基本原則を理解したうえで、災害に強い地域コミュニティづくりについて主体的に考えることを目的とします。防災のための取組みは、公的(フォーマル)な制度・施策と、家族や近隣住民・地域社会といった私的(インフォーマル)な関係の中で行われるものがあります。その両方の利点や限界を知り、災害という非常時に、自分や自分の大切な人、地域や社会の誰かの命や心を守るために、平時の今、備えておけることについて考えましょう。第1回～第3回は基本的に座学形式となります。第4回目は発表会で、受講生の皆さんご自身で立案した防災・減災対策案について発表を行っていただきます。第4回の発表会にむけては、講座時間外に各自で準備をしていただくことを想定しています(ご自身のご関心に応じて、ご無理のない範囲でお取組みください)。

春学期開講日程 第1回 5/17(土) 10:00～11:30 第2回 5/31(土) 10:00～11:30 第3回 6/14(土) 10:00～11:30 第4回 6/28(土) 10:00～11:30

SNS時代のテレビ最前線ーテレビが直面する課題ー

いま、メディアはかつてない変革の時代を迎えています。テレビや新聞に対する不信が増大し、SNSの影響が急拡大。そうした中でテレビもこれまでとは違う姿勢を求められています。本講座では、実際のテレビ番組を2本程度、事前に視聴しながら、予め感想文を提出してもらい、議論する「反復学習」のかたちで進めていきます。「ジャーナリズム」の最前線のテーマである性の多様性、性暴力、戦争、政治の分断などをとりあげます。メディア関係の大学への進学を希望する人、メディア企業などへの就職を希望する人、あるいは社会人でメディアというものを考えてみたい人など向けに「いまメディアで“旬”の話題」をネタに載せて議論していきます。いま、社会問題の様々な分野で「メディア」がかかわっています。現在のようにスマートフォンでネットにつながり、映像を視聴できるようになったのはわずか10年あまりの期間の出来事です。それは社会全体に大きな変化をもたらしつつあります。授業では「材料」を提供しますが、世を超えた議論の場をつくって「刺激」を与え合うことがこの時間の最大の目的です。他では学ぶことができない「現場」の生々しい話のシャワーを浴びてください。

春学期開講日程 第1回 5/12(月) 18:30～20:00 第2回 5/26(月) 18:30～20:00 第3回 6/9(月) 18:30～20:00 第4回 6/23(月) 18:30～20:00

技術革新

AIの社会への貢献と課題

現代の人工知能(AI)は、人間社会にどう貢献しているのでしょうか。あるいは、そこには何らかの弊害も生じているのでしょうか。第3次AIブームにより社会が大きく変容している現在、これらの問いに対する「答え」も日々変化し続けています。開発途上国では、確かにAIを含むデジタル技術により、医療や教育、金融などサービスの質が大幅に向上している分野があります。他方で、AIやロボットによる自動化技術により雇用が奪われたり、AIを利用できる人々と利用できない人々の間で格差が拡大するのではないかといった懸念を上げる声も少なくありません。この講座では、AIが貧困削減をはじめ持続可能な開発目標(SDGs)の様々な目標に対してどのように貢献できるのか、あるいはどのような負の影響を及ぼしうるのかについて、最新の事例や研究を通して学習します。扱うトピックは貧困、農業、環境、医療、教育など多岐にわたります。様々な分野におけるAIの功罪を問うことで、私たち自身の今後の暮らしや社会について考えることを目指します。

春学期開講日程 第1回 5/13(火) 18:30～20:00 第2回 5/27(火) 18:30～20:00 第3回 6/10(火) 18:30～20:00 第4回 6/24(火) 18:30～20:00

電子レンジの魔法ーマイクロ波の科学とその応用ー

本講座では、電子レンジの技術が私たちの生活に与えた影響と、今後の未来にどのように革新をもたらすかを探ります。4回の講義を通じて、電子レンジの歴史や仕組みから、最先端の応用技術まで幅広く学びます。第1回:電子レンジの知られざる歴史と進化 電子レンジは、第二次世界大戦中の偶然的発見から誕生し、家庭用機器として広まりました。本回では、発明の背景や「食品を温める革命」の始まりを解説し、冷凍食品の進化と電子レンジの関係についても触れます。第2回:マイクロ波の謎を解き明かす! 電子レンジのマイクロ波は、物理と化学の力を利用しています。この回では、マイクロ波が食品にどのように作用や特殊な加熱の現象などについて解説します。科学的視点から、電子レンジの仕組みを理解します。第3回:電子レンジを使いこなすプロフェッショナルになろう! 実践的な使い方を学び、時間とエネルギーを節約するためのコツや裏技を紹介します。家庭で役立つ簡単で美味しいレシピや、電子レンジのトラブル解決法も取り上げ、安全に使うための注意点も学びます。第4回:未来を変える電子レンジの驚異的な応用 最終回では、電子レンジの技術が化学、生物学、エネルギー分野に与える革新について考察します。マイクロ波が水素エネルギーや廃棄物問題にどう貢献するのか、未来の食文化にどのように影響するのかを探ります。この講座を通じて、電子レンジの持つ未知の可能性と未来の技術を学びます。

春学期開講日程 第1回 5/9(金) 18:30～20:00 第2回 5/16(金) 18:30～20:00 第3回 5/23(金) 18:30～20:00 第4回 5/30(金) 18:30～20:00

我々の世界を構成しているものー光と電子の旅ー

我々は環境問題やエネルギー問題など多くの社会課題を抱えています。これらの課題を社会科学の立場だけでなく、自然科学の立場からも考えるきっかけを与えるため、そもそも我々の世界は大元を辿ったら何からできているのか、という問いを本講座の中心に置きます。地球も人間も、原子・分子からできています。そして、すべての生命活動は原子・分子の組み換えであって、その過程で中心的な働きをしているのは光と電子です。また、原子力以外のエネルギーは、源流をたどると、すべて太陽光のエネルギー、すなわち光から得られています。本講座では、光と電子がどのような形で我々の世界を構成しているかを講義します。専門的な知識は必要なく、数式や化学式などは殆ど使わずに説明するため、理系でなくても大丈夫です。光と電子の旅を通して、宇宙・地球・生命・エネルギー・環境などを広い視点から捉えていきたいと考えています。

春学期開講日程 第1回 5/22(木) 18:30～20:00 第2回 6/5(木) 18:30～20:00 第3回 6/19(木) 18:30～20:00 第4回 7/3(木) 18:30～20:00

社会の役に立たない基礎科学は本当に必要か?

「今年のノーベル賞、日本人は受賞せず。」このニュースの見出し、何か違和感がありませんか?ノーベル賞に値する基礎科学の成果は人類共通の財産であり、誰が受賞したかではなくその内容と意義が報じられるべきです。一方、近年の基礎科学の中には膨大な予算や時間を必要とするビッグサイエンスもあります。貧困、経済、地球温暖化、教育格差といった喫緊の社会問題もある中で、限られた国家予算を湯水のごとく研究に使うわけにもいきません。そこで、高校生から社会人まで様々な世代が集まる地球市民講座で、様々な視点から「基礎科学は必要か?」というお題で語り合ってみませんか?ディベートといっても心配する必要はありません。自分の意見に関わらず賛成派、反対派に分かれて、互いの意見を尊重しながら議論を盛り上げていきます。この講座を通して、基礎科学がもたらす未来とその現代社会における位置付けについて理解を深めていきましょう。

春学期開講日程 第1回 5/19(月) 18:30～20:00 第2回 6/2(月) 18:30～20:00 第3回 6/16(月) 18:30～20:00 第4回 6/30(月) 18:30～20:00

デジタル技術と社会的課題のつながりを理解する

デジタル技術の進展は目覚ましいものがあります。コロナ禍によりオンラインでのコミュニケーションが普及し、生成AIの登場は社会に大きなインパクトを与えています。すでにデジタル技術は見えないところで私たちの生活を支えています。今後、地球規模の社会的な課題の解決にますます重要な役割を果たすことが期待されています。本講座では、人工知能(AI)、モノのインターネット(IoT)、ビッグデータ、クラウド、仮想現実(VR)などのデジタル技術の基礎と最新技術を学んだ上で、デジタル技術が経済、社会、環境などの地球規模の課題やSDGsとどのようにつながっているかを具体的な事例を見ながら理解を深めます。さらに、受講する皆さんと一緒に、デジタル技術で持続可能な社会にどう貢献できるかを考えていきます。

春学期開講日程 第1回 5/16(金) 18:30～20:00 第2回 5/30(金) 18:30～20:00 第3回 6/13(金) 18:30～20:00 第4回 6/27(金) 18:30～20:00

社会課題

戦争システムから平和システムへ

ーキリスト教平和学／パレスチナ紛争・北アイルランド紛争の事例から考えるー

今日世界が直面している一番大きな危機は気候変動でしょう。それにもかかわらず各国の軍事費は増大し、軍需産業は潤っています。気候変動を引き起こしている産業開発のスタイルは「戦争システム」を支えてきた体制と表裏一体です。軍縮、環境保全、飢餓解消、人権擁護などの要求は、別々の運動ではなく、「戦争システム」に取って代わるべき「平和システム」を構築するキャンペーンのさまざまな位相です。上智大学の教育のルーツは、聖イグナチオの『靈操』の「原理と基礎」の「人間が造られたのは、わたしたちの主である神を賛美し、敬い、仕えるためであり、それによって自らの魂を救うためである」にあります。わたしたちに求められるのは、「わたしの魂よ、主をたたえよ」を貫き、質素に生き、寛大に分かち合うことです。平和学の最も簡潔な定義は「戦争の諸原因と平和の諸条件に関する研究と教育」であり、聖書の平和(シャローム)は、単に争いが存在しないだけではなく、無欠を意味する語に由来し、何も必要としない命の充実です。「戦争システム」から「平和システム」への転換をパレスチナ紛争と北アイルランド紛争の事例から考えます。

春学期開講日程 第1回 5/15(木) 18:30～20:00 第2回 5/29(木) 18:30～20:00 第3回 6/12(木) 18:30～20:00 第4回 6/26(木) 18:30～20:00

戦争システムから平和システムへ

今日世界が直面している一番大きな危機は気候変動でしょう。それにもかかわらず各国の軍事費は増大し、軍需産業は潤っています。気候変動を引き起こしている産業開発のスタイルは「戦争システム」を支えてきた体制と表裏一体です。軍縮、環境保全、飢餓解消、人権擁護などの要求は、別々の運動ではなく、「戦争システム」に取って代わるべき「平和システム」を構築するキャンペーンのさまざまな位相です。上智大学の教育のルーツは、聖イグナチオの『靈操』の「原理と基礎」の「人間が造られたのは、わたしたちの主である神を賛美し、敬い、仕えるためであり、それによって自らの魂を救うためである」にあります。わたしたちに求められるのは、「わたしの魂よ、主をたたえよ」を貫き、質素に生き、寛大に分かち合うことです。平和学の最も簡潔な定義は「戦争の諸原因と平和の諸条件に関する研究と教育」であり、聖書の平和(シャローム)は、単に争いが存在しないだけではなく、無欠を意味する語に由来し、何も必要としない命の充実です。「戦争システム」から「平和システム」への転換をパレスチナ紛争と北アイルランド紛争の事例から考えます。

春学期開講日程 第1回 5/15(木) 18:30～20:00 第2回 5/29(木) 18:30～20:00 第3回 6/12(木) 18:30～20:00 第4回 6/26(木) 18:30～20:00

技術革新

AIの社会への貢献と課題

現代の人工知能(AI)は、人間社会にどう貢献しているのでしょうか。あるいは、そこには何らかの弊害も生じているのでしょうか。第3次AIブームにより社会が大きく変容している現在、これらの問いに対する「答え」も日々変化し続けています。開発途上国では、確かにAIを含むデジタル技術により、医療や教育、金融などサービスの質が大幅に向上している分野があります。他方で、AIやロボットによる自動化技術により雇用が奪われたり、AIを利用できる人々と利用できない人々の間で格差が拡大するのではないかといった懸念を上げる声も少なくありません。この講座では、AIが貧困削減をはじめ持続可能な開発目標(SDGs)の様々な目標に対してどのように貢献できるのか、あるいはどのような負の影響を及ぼしうるのかについて、最新の事例や研究を通して学習します。扱うトピックは貧困、農業、環境、医療、教育など多岐にわたります。様々な分野におけるAIの功罪を問うことで、私たち自身の今後の暮らしや社会について考えることを目指します。

春学期開講日程 第1回 5/13(火) 18:30～20:00 第2回 5/27(火) 18:30～20:00 第3回 6/10(火) 18:30～20:00 第4回 6/24(火) 18:30～20:00

電子レンジの魔法ーマイクロ波の科学とその応用ー

本講座では、電子レンジの技術が私たちの生活に与えた影響と、今後の未来にどのように革新をもたらすかを探ります。4回の講義を通じて、電子レンジの歴史や仕組みから、最先端の応用技術まで幅広く学びます。第1回:電子レンジの知られざる歴史と進化 電子レンジは、第二次世界大戦中の偶然的発見から誕生し、家庭用機器として広まりました。本回では、発明の背景や「食品を温める革命」の始まりを解説し、冷凍食品の進化と電子レンジの関係についても触れます。第2回:マイクロ波の謎を解き明かす! 電子レンジのマイクロ波は、物理と化学の力を利用しています。この回では、マイクロ波が食品にどのように作用や特殊な加熱の現象などについて解説します。科学的視点から、電子レンジの仕組みを理解します。第3回:電子レンジを使いこなすプロフェッショナルになろう! 実践的な使い方を学び、時間とエネルギーを節約するためのコツや裏技を紹介します。家庭で役立つ簡単で美味しいレシピや、電子レンジのトラブル解決法も取り上げ、安全に使うための注意点も学びます。第4回:未来を変える電子レンジの驚異的な応用 最終回では、電子レンジの技術が化学、生物学、エネルギー分野に与える革新について考察します。マイクロ波が水素エネルギーや廃棄物問題にどう貢献するのか、未来の食文化にどのように影響するのかを探ります。この講座を通じて、電子レンジの持つ未知の可能性と未来の技術を学びます。

春学期開講日程 第1回 5/9(金) 18:30～20:00 第2回 5/16(金) 18:30～20:00 第3回 5/23(金) 18:30～20:00 第4回 5/30(金) 18:30～20:00

電子レンジの魔法ーマイクロ波の科学とその応用ー

本講座では、電子レンジの技術が私たちの生活に与えた影響と、今後の未来にどのように革新をもたらすかを探ります。4回の講義を通じて、電子レンジの歴史や仕組みから、最先端の応用技術まで幅広く学びます。第1回:電子レンジの知られざる歴史と進化 電子レンジは、第二次世界大戦中の偶然的発見から誕生し、家庭用機器として広まりました。本回では、発明の背景や「食品を温める革命」の始まりを解説し、冷凍食品の進化と電子レンジの関係についても触れます。第2回:マイクロ波の謎を解き明かす! 電子レンジのマイクロ波は、物理と化学の力を利用しています。この回では、マイクロ波が食品にどのように作用や特殊な加熱の現象などについて解説します。科学的視点から、電子レンジの仕組みを理解します。第3回:電子

技術革新

日常生活とデータサイエンス

本講座は、データサイエンスの基本的な理解を深めたい方向への教養講座です。データが生活やビジネスの中でどのように活用されているかをわかりやすく解説し、日常の視点からデータサイエンスの重要性や応用例を学びます。データの力を日常や仕事に活かしたい方にとって、実践的な知識と考える力を養う絶好の機会となるでしょう。特に専門知識がない方も無理なく受講できるよう、基礎的な内容を中心に展開します。また、データサイエンスに関連する倫理や社会的課題にも触れ、これからのデジタル社会において必要となる新たな価値の創造に関する視点を提供します。

📅 春学期開講日程 第1回 5/22(木) 18:30～20:00 第2回 6/5(木) 18:30～20:00 第3回 6/19(木) 18:30～20:00 第4回 7/3(木) 18:30～20:00

社会変革

潜伏キリシタンから「かくれキリシタン」へ

ー長崎・天草のユネスコ世界文化遺産から探るー

高校までの歴史の授業で、カトリック系学校の多くを含めて、キリシタン史全体を学ぶことはほとんどありません。本講座では、①ザビエルによるキリスト教の日本伝来から、1600年前後の隆盛期、②江戸幕府による禁教令発布から、キリシタンの250年以上に及ぶ潜伏期、③1865年の信徒発見から、かくれキリシタンの誕生とその離伏期、④「長崎と天草の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコ世界文化遺産に登録された(2018年)前後の「かくれキリシタン」の様相の4時期を辿りながら、キリシタン史の概要を学びます。潜伏キリシタンと「かくれキリシタン」との概念上の相違にも注意を払い、キリシタン版やオラショ、聖画像、マリア観音像などの宗教文化的遺産の事例を、写真を通してですが、具体的に確認して学びを深めたいと考えています。

📅 春学期開講日程 第1回 5/13(火) 18:30～20:00 第2回 5/20(火) 18:30～20:00 第3回 6/3(火) 18:30～20:00 第4回 6/10(火) 18:30～20:00

教養としての組織論

現代は組織の時代といわれ、現代社会は組織社会といわれています。かくして、組織は現代を象徴するもののひとつになっており、今を生きる私たちの生活に欠くことができない重要な存在になっています。組織のあり方によって、個人としての私たちの生き方が変わり、私たちが生きている社会がどのようなものになるかが変わってきます。したがって、組織について学ぶことが、すべての現代人にとって必須となってきています。にもかかわらず、……………。昨今、社会が劣化してきているという認識がようやく散見されるようになってきましたが、日本でも社会の劣化は確実に進行してきました。その原因のひとつに、組織についての無知、あるいはより深刻ですが、誤った知識があります。この講座では、すべての現代人が学ぶべき教養としての組織論をテーマとします。この講座をきっかけとして、受講者の皆さんが、日頃から、より広い教養を身につける生活をしていただくことを期待いたします。なお、この講座は板書をもとに講義形式で行います。ノートと筆記用具の用意をお忘れなく。

📅 春学期開講日程 第1回 5/7(水) 18:30～20:00 第2回 5/21(水) 18:30～20:00 第3回 6/4(水) 18:30～20:00 第4回 ④6/18(水) 18:30～20:00

聖書にみる人生の四季と希望ー「希望の巡礼者」として歩むー

春夏秋冬それぞれの季節に美しさや恵みと厳しさや困難があるように、「人生の四季」すなわち私たちの生涯の各時期にも、その時期に特有の恵みや厳しさがあるものです。本講座では、人生の四季を歩みゆく人間の姿を、聖書の視点でヒストに探求します。災害ややむことのない紛争等、希望をもって生きることが難しいようにも思われる現代世界において、私たちはどのように希望をもって人生の旅路を歩んでいくことができるでしょうか。聖書の語りに耳を傾け、2025年にカトリック教会で掲げられている「希望の巡礼者」というテーマを深め、現代の生涯発達研究をも参考にして考えたいと思います。

📅 春学期開講日程 第1回 5/30(金) 18:30～20:00 第2回 6/13(金) 18:30～20:00 第3回 6/27(金) 18:30～20:00 第4回 7/11(金) 18:30～20:00

感情を歴史するー感情史研究の現代的意義と可能性ー

現代社会においては「感情」が大きな役割を果たしています。政治への「怒り」の感情が選挙の際に力になったり、エンパシー(共感力)や心の知能指数(EQ, emotional quotient)の育成が重要だ、と言われたりすることのなかにも「感情」の意義は見取れるでしょう。現代の歴史学においても「感情」は関心を集めており、例えば、ジェンダーにフォーカスする歴史研究がジェンダー史と呼ばれるのと同様、「感情史」と呼ばれるアプローチが目立っています。本講座では、感情の歴史性を学び、感情史が登場した歴史的背景をひもときながらその現代的な意義を明らかにする一方で、感情史とはどのようなものでありうるのか、そこにいかなる可能性(限界も含む)が見出せるのかといった問いを、具体的な事例をもとに受講者とともに考えます。

📅 春学期開講日程 第1回 5/8(木) 18:30～20:00 第2回 5/22(木) 18:30～20:00 第3回 6/5(木) 18:30～20:00 第4回 6/19(木) 18:30～20:00

心を情報処理機構として捉えるー認知心理学への招待ー

例えば、誰かに褒めてもらい、嬉しい!と感じたとき、「心」が働いている実感が得られると思います。では、なぜ受け取った言葉が「褒めている」内容と分かったのでしょうか?そもそもなぜ、音や文字のかたまりを言葉として認識できるのでしょうか?私たちが普段の生活の中で当たり前のことだと考えている、見たり、聞いたりすること、そしてその内容を解釈することは、実は心の重要な働きなのです。心理学の専門領域の一つである「認知心理学」では、人の心を情報処理機構として捉え、私たちの周りにある事柄が認識される仕組みを研究しています。本講座では、そのような私たちの心の情報処理機構としての側面的一端について、様々なデモンストレーションを交えながら紹介し、一緒に考えてみたいと思います。

📅 春学期開講日程 第1回 5/13(火) 19:00～20:30 第2回 5/27(火) 19:00～20:30 第3回 6/10(火) 19:00～20:30 第4回 6/24(火) 19:00～20:30

少子高齢社会、家族と人生の来し方・行く末ー大家族からおひとりさまへー

日本の人口構造の変化として少子高齢化が着目される中、そのことは私たちの身近な事象として家族や人生の急激な変化として現れてきています。1000年後に日本人がいなくなることも推測されている少子化、世界トップの比率で進む高齢化は、ともにマクロ的には課題先進国・日本をしめし、ミクロ的には大家族からおひとりさまの増加への世帯構成の変容がそれと連動しています。そこには、誰もそういうことをしようと思っていないのに現実化してしまう、(近代)という社会の動きがもたらした意図せざる結果が横たわっています。本講座では、まず人口構造の少子高齢化の実情を説明し、その後、社会学研究として、人生を家族の周期ととらえるライフサイクル論、歴史の刻印を受けながら各々人が生きていく人生たるライフコース論といった議論を紹介いたします。それらをつまみ、私たちの家族や人生の物語はどのように変わっていき、さらにこの先、どのようなことが待ち受けているのかを考察していきます。社会学の研究視点を楽しみたい方々のご参加をお待ちしています。

📅 春学期開講日程 第1回 5/10(土) 12:30～14:00 第2回 5/24(土) 12:30～14:00 第3回 6/7(土) 12:30～14:00 第4回 6/21(土) 12:30～14:00



基盤教育センター
非常勤講師
鎌田 浩史



名誉教授
高祖 敏明



名誉教授
小林 順治



神学部
神学科
教授 武田 なほみ



文学部
史学科
准教授 森田 直子



総合人間科学部
心理学科
教授 日高 聡太



総合人間科学部
社会学科
特別契約教授
藤村 正之

社会を変えるための社会政策入門

本講座では、社会政策や社会福祉がもつ「社会変革」の側面に焦点を当てます。本来、社会福祉や社会政策が目指しているのは、ただ問題を解決することにとどまらず、そもそも問題が生み出されることのない社会を作り上げることです。でも、どうしたらそんなことができるのでしょうか。それを考える導きの糸となるのが、「シティズンシップ」です。シティズンシップとは、社会を構成する一員(市民)としてのひとのあり方のことを指します。私たちは皆この社会の一員である以上、社会で起こる様々な出来事や現象、その積み重ねとして作られる社会そのものに当事者として関わっています。だからこそ、私たちは同じ社会の一員として何ができるのか、どう振る舞うべきなのか、そして社会にどんなインパクトを与えられるのかを学び、理解することは、より良い社会を目指して歩みを進めていくうえで大きな助けとなるはずです。社会福祉や社会政策をより深く学びたい方、現代社会における市民としてのあり方に関心のある方の受講をお待ちしています。

📅 春学期開講日程 第1回 5/13(火) 18:30～20:00 第2回 5/27(火) 18:30～20:00 第3回 6/10(火) 18:30～20:00 第4回 6/24(火) 18:30～20:00

行動経済学者と考えるこれからの資本主義社会での働き方・生き方

物質的な豊かさを追求してきた20世紀型の資本主義社会は、環境問題、貧富の格差、社会的孤立など、多様な問題を生んでしまいました。日本社会はその典型で、最も豊かな国の一つでありながら、幸福度が低く、自殺者が多い社会となってしまっています。行動経済学は人間行動の科学的な知見に基づいて、経済行動や経済現象を理解しようとする学問で、人々の幸福についても研究が進んでいます。この講座では、資本主義社会の光と影の部分を行動経済学の視点から理解し、その中でどのように働いていくべきか、生きていくべきかを受講者の皆さんと一緒に考えていきます。

<予定している講義の概要> ①行動経済学が考える人間行動のメカニズム ②幸福感はどのように決まるのか 幸せな働き方・生き方

③資本主義社会において“資本”を持つとは 貯蓄から投資へのシフトを考える

④資本主義社会の課題(環境問題 貧富の格差 社会的孤立)を行動経済学の視点で考える

📅 春学期開講日程 第1回 5/15(木) 18:30～20:00 第2回 5/29(木) 18:30～20:00 第3回 6/12(木) 18:30～20:00 第4回 6/26(木) 18:30～20:00

「学ぶ」から「動く」へー国際人権規範を使って、自分の暮らしをとらえなおしてみようー

「世界／社会を変えたい」なら、その一員である「自分が変わる」ことから始めてみてはどうでしょうか?他人事だと思っていたことが自分と関わっていること、個人的なことが地球規模課題とつながっていること、日々の暮らしは政治や社会運動によって変わり得ることを事例から学び、実践につなげるヒントを提供します。性別、性自認、性的志向、年齢、障害の有無、民族、国籍や母語の違い、婚姻や家族構成、就労状況による立場の違いに起因する差別や格差に気づき、その克服を「ソーシャル・アクション」の実践を通して学びます。①自分自身の学びや行動変容による個人のアクション、②仲間と学び、類似の活動を支援するコミュニティ・アクション、③NGOなどの活動に参加し当事者と直に接する現場でのアクション、④仕組みを変えていくための政策提言など社会に対するアクション、の4段階をみなさんと議論しながら、デザインしてみましよう。

📅 春学期開講日程 第1回 5/13(火) 18:30～20:00 第2回 5/27(火) 18:30～20:00 第3回 6/10(火) 18:30～20:00 第4回 6/24(火) 18:30～20:00

自分と他者をサステイナブルにする生涯学習ー2050年の教育と社会を再想像するー

SDGsでお馴染みとなった「サステイナビリティ」とは何を意味するのでしょうか?世界中で持続可能な開発を目指しているのに、メディアや日常生活で生きづらい感覚や不安が伴うのは、なぜでしょうか?その理由は、私たちが学校や社会で真面目にしっかり正解を学んだがゆえかもしれません。この講座では、他人だけでなく動植物など生態系も含めた「他者」と自分自身をサステイナブルにする生涯学習について確認しながら、実際に「学びほぐし・学び捨て(learning)」を行います。2050年の未来について想像しながら、自分と他者をサステイナブルにする方向やアクションを作っていきます。講座の中では、ご自身のさまざまな経験をふりかえり、受講生同士の対話を通して、どのような経験を選んでいくかが重要になります。なお、社会人経験をお持ちの方を対象とした講座となります。

📅 春学期開講日程 第1回 5/22(木) 18:30～20:00 第2回 6/5(木) 18:30～20:00 第3回 6/19(木) 18:30～20:00 第4回 7/3(木) 18:30～20:00

国際教養と生き方(1)ーなぜ名作を観る・読むのかー

この講座では、国内外の映画や文学の名作から生き方のヒントを探ります。春学期は世界的に有名な4人の映画監督 (小津安二郎、黒澤明、James Ivory、黒木和雄)に焦点を当て、彼らの代表作の芸術性と意味を考察します。家族、孤独、真実、正義、善悪、愛、喪失、生きることの意味などについて議論します。秋学期は、4人の有名作家(E.B. White, George Orwell, 大江健三郎, Franz Kafka)による、並外れた生き物とそれが人間に与える影響を扱った文学作品に焦点を当てます。生と死、友情、政治、平等、愛、許し、存在の意味などについて議論します。春学期と秋学期の講座は異なる内容で実施します。また、順番に関係なく受講できます。

📅 春学期開講日程 第1回 4/11(金) 17:30～19:00 第2回 4/25(金) 17:30～19:00 第3回 5/9(金) 17:30～19:00 第4回 5/23(金) 17:30～19:00

サステナビリティ時代の哲学ーわたしたちの価値観の持続可能性を問い直すー

現代のさまざまな技術革新を通じて、わたしたちは歴史のターニングポイントに立たされています。これまでのわたしたちの営みをかたちづけてきたもののなかからサステナブルなものを選び出し、そうでないものを変えていく必要が生じています。本講座で焦点を当てるのは、こうした時代を生きるわたしたちの価値観のサステナビリティについてです。存在論・認識論・価値哲学(倫理/美学)・政治哲学の四つの領域で、わたしたちの価値観がサステナブルなものになっているかどうか、そうでないならばどう変えていくのがよいかを考察します。理解を深めるための材料としてニーチェやデリダといった「現代」を切り開いた思想家たちのアイデアについてレクチャーを行うだけでなく、受講生同士で対話し、問いかけ、内省する機会をつくることで、多様な視点から現代という時代について理解を深めます。

📅 春学期開講日程 第1回 5/20(火) 18:30～20:00 第2回 6/3(火) 18:30～20:00 第3回 6/17(火) 18:30～20:00 第4回 7/1(火) 18:30～20:00

アフリカの智でつなぐ世界ー食・布・学びの展開からー

現代の日本、そして世界にとってアフリカ地域の存在感は、政治経済分野を中心に影響力を増しています。一方で、私たちの日々にアフリカ地域へ思いを巡らす機会はいくらほどあるでしょうか。日本とアフリカ地域との人的交流が成長過程であるなかで、その実態や魅力、可能性を実感している人は一握りかもしれません。この講座では、アフリカの多様な文化と歴史に触れ、現代社会に生きる私たちや世界との繋がりを見出します。日本とアフリカの17世紀に始まる歴史的な交流や、独自の経験と共感を生む文化の魅力と現代との繋がりを深く理解することで、地球規模での視野を広げることを目指します。例えば、民話や音楽を通して広がる地域の思想や知恵は、既存の価値観を問い直すものがあるでしょう。食文化や布文化からは古代から現代まで続く物流のありようが見えてきます。アフリカの智に学び、新しい視点を得ることで、人生を考えるヒントや気づきを探っていきましょう。

📅 春学期開講日程 第1回 6/9(月) 18:30～20:00 第2回 6/16(月) 18:30～20:00 第3回 6/23(月) 18:30～20:00 第4回 6/30(月) 18:30～20:00



総合人間科学部
社会福祉学科
准教授
平野 寛弥



経済学部
経済学科
教授 川西 諭



総合グローバル学部
総合グローバル学科
教授 田中 雅子



総合グローバル学部
総合グローバル学科
教授 丸山 英樹



国際教養学部
国際教養学科
教授 ユー・アンジェラ



基盤教育センター
特任助教
梅田 孝太



事務局
SFDP推進室
University Education
Administrator (UEA)
山崎 瑛莉